

第13回決済システムフォーラム資料

次世代RTGS第2期対応の検討状況



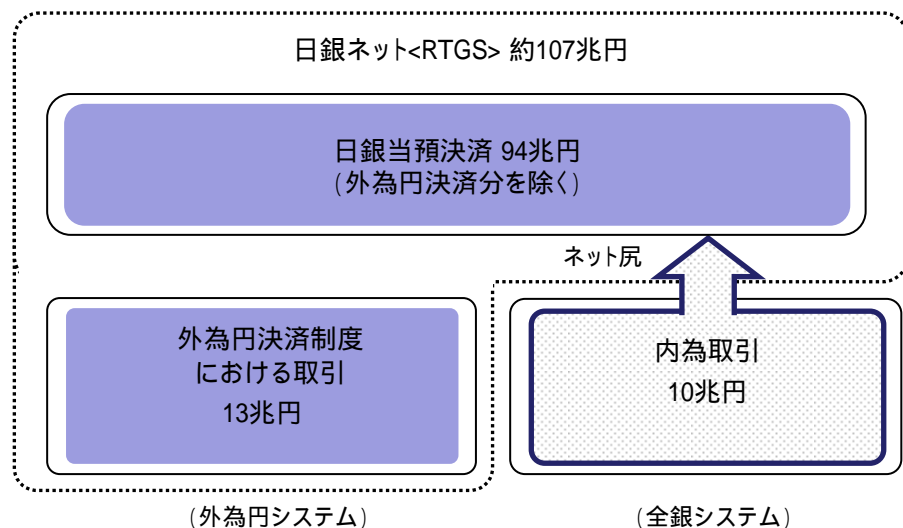
日本銀行 決済機構局

2010年12月14日

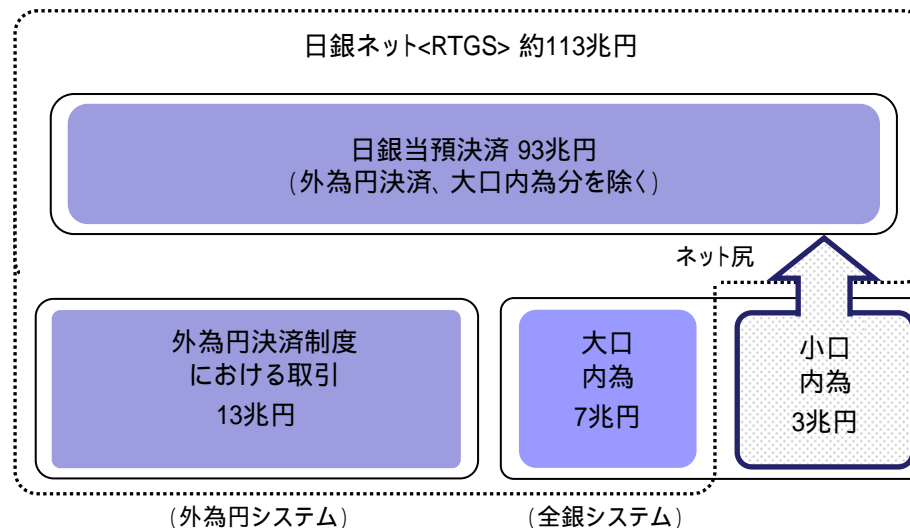
第2期対応の概要

- 日銀当預RTGSに流動性節約機能を導入 <第1期対応>
- 全銀システムで1日1回の時点ネット決済で処理されている内為取引のうち、大口分(1件1億円以上の取引)を、日銀当預RTGSで日中即時に決済 <第2期対応>

現在のイメージ(第1期対応後、2008年10月~)



大口内為取引のRTGS化後(第2期対応後、2011年11月~)



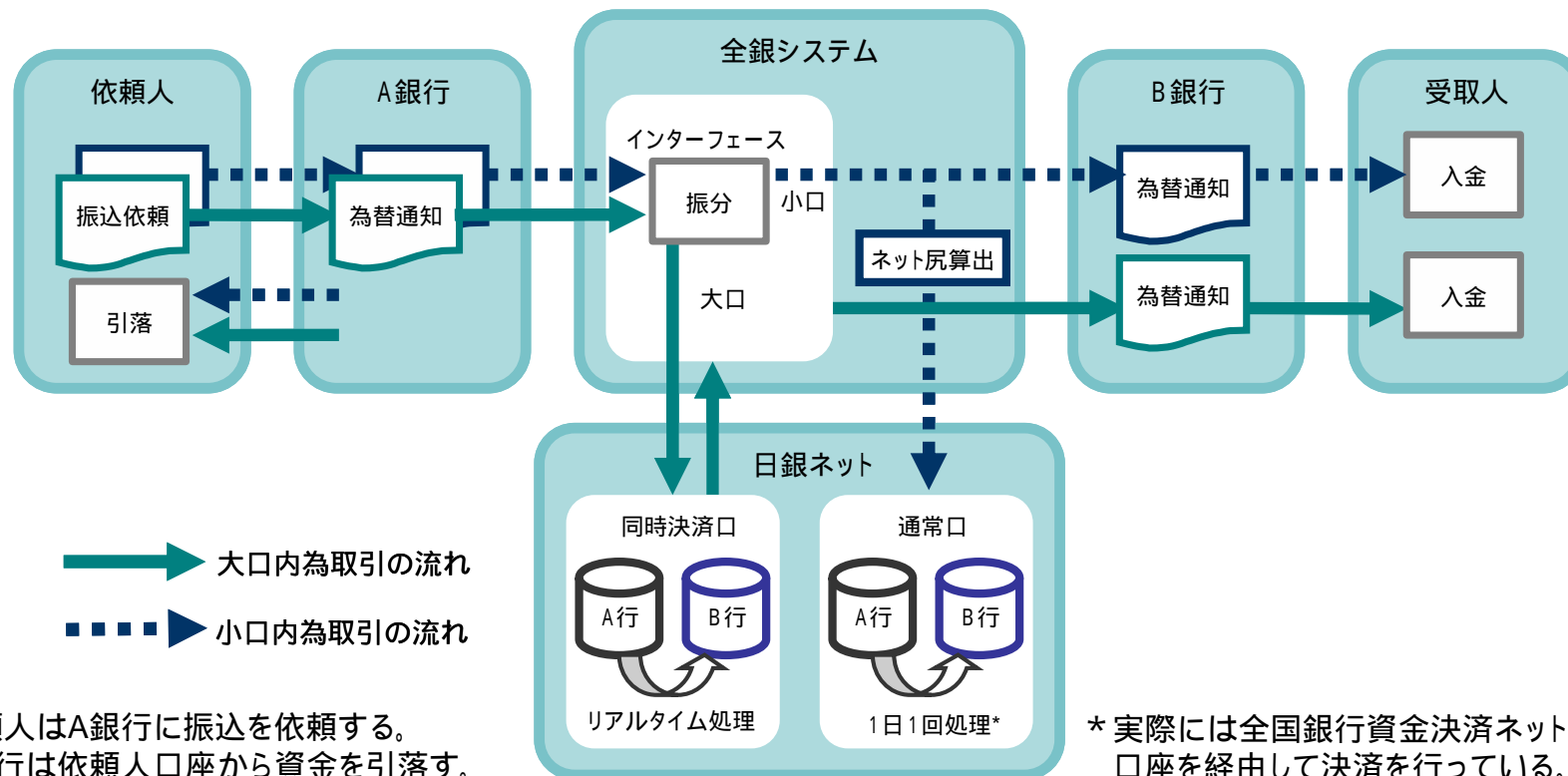
RTGSの対象範囲

時点ネット決済の対象範囲

注) 計数は2010年10月の1営業日平均の決済金額を基に試算

第2期対応の概要

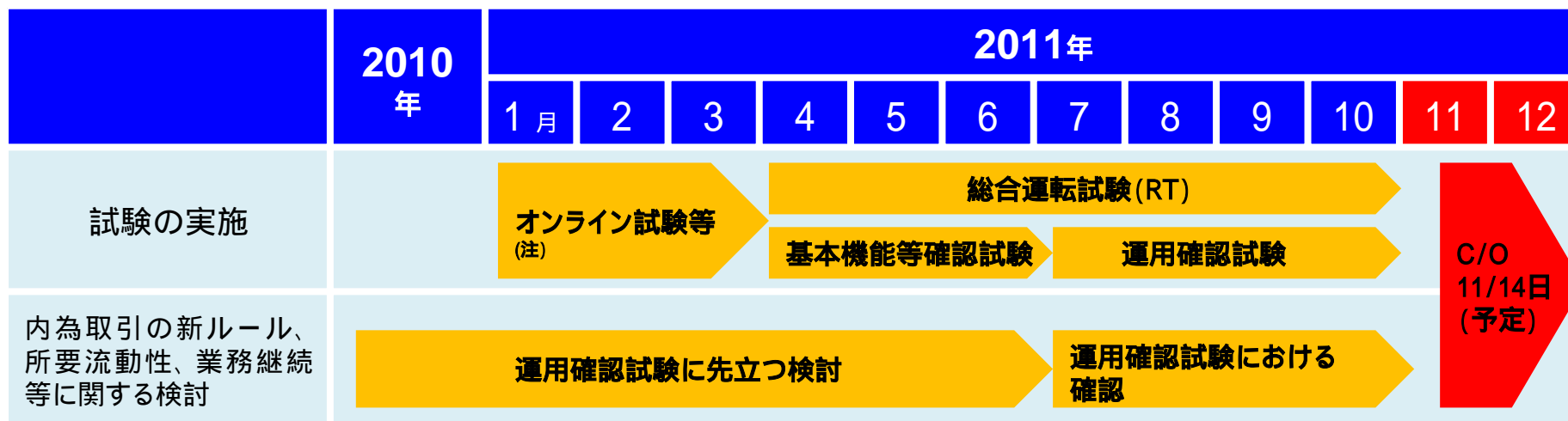
- 仕向銀行から全銀システムに送信された内国為替取引のうち、大口内為取引については、銀行間の資金決済に必要な情報が抽出されて、全銀システムから日銀ネットに送信され、RTGS方式で決済
- 日銀ネットでRTGS処理された結果は、全銀システムに送信され、それを受けて、全銀システムが被仕向銀行に為替通知を送信
- なお、小口の内国為替取引(1件1億円未満の取引)については、従来どおり時点ネット決済で処理



依頼人はA銀行に振込を依頼する。
 A銀行は依頼人口座から資金を引落す。
 A銀行は為替通知を全銀システムに送信する。
 全銀システムは、大口内為取引を抽出し、日本銀行に振替依頼を送信する。
 日本銀行はA銀行の同時決済口からB銀行の同時決済口に資金を振替えた後、処理済通知を全銀システムに送信する。
 全銀システムは、B銀行に為替通知を送信する。
 B銀行は受取人口座に入金する。

第2期対応の検討スケジュール

■ 稼働開始 (C/O) までのスケジュール



(注) 第2期対応により一部変更となるCPU接続・ファイルUL/DL機能について、その利用希望先のシステムと日銀ネットとのインターフェースの正当性を確認するための試験

■ 総合運転試験 (RT) の概要

	実施日	試験目的
基本機能等確認試験	4月23日 5月 7日 < 予備日 > 6月11日 6月18日 < 予備日 >	第2期対応において新設・変更される日銀ネットの入出力電文や大口内為取引の決済に関する事務と動作の習熟等の確認
運用確認試験	7月18日 9月19日 10月16日 < 予備日 >	第2期対応後の当座勘定 (同時決済口) の決済環境に応じた所要資金の準備や決済の進捗管理等にかかる実務運用の確認・習熟

* 日付はいずれも2011年

第2期対応後の円滑な決済の確保に関する主な検討ポイント

第2期対応後においても、当座勘定(同時決済口)での決済全体が、引き続き円滑に行われるよう、全銀ネット、市場参加者等との連携が重要

< 主な検討ポイント >

■ 大口内為取引に関する新しい決済ルールの導入

- 大口内為取引専用時間帯^(注)の活用などにより、同時決済口における決済を円滑に実施するためのルールを導入する予定

(注) 月末日の8:30 ~ 9:00に設ける予定。

■ 所要流動性の検討

- 大口内為取引がRTGS処理の対象になることに伴い、内為加盟行では所要流動性量や投入タイミング等を検討する必要
- 各行の内部検討に資するよう、全銀ネット等と連携しつつ、市場参加者等全体での検討(検討方法の一案提示)も予定

■ 業務継続能力の確保

- 日銀ネットと全銀システム間の接続インターフェースに関する回線が全て途絶するケースにおける代替手段を確保
- 具体的には、次の代替手段の優先順位や発動手順について検討

日銀ネット端末のファイルUL/DL機能を利用したRTGS処理の継続
大口内為取引を小口内為取引と合わせて時点ネット決済で処理